

1. 調査報告概要表

作成日 2008年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3 4 7 1 5 0 3 9 5 7
法人名	株式会社ホンダニイマルヨン
事業所名	グループホーム木之庄
所在地	広島県福山市木之庄町3 - 3 - 17 (電 話) 084 - 923 - 7163

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(20年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	14 人	常勤 2 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	5.4

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2 階建ての, 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,033 円

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城北診療所、おきとう歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の商店のある通りに面した場所にある1ユニットのグループホームである。ホーム内は家庭的な雰囲気が入居者、職員が1日をゆったりした雰囲気ですごされている。入居者は女性ばかりでそれをホーム長と全職員が暖かく包み込んで生活しておられる。施設として看取りまでを行なっておられ、職員はその取り組みが出来ている。家族の費用負担を考慮に入れた運営は家族にオープンにした取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価内容は職員もよく理解しており介護の中に取り入れて行なっている。特に看取りが医師との連携で行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員参加での自己評価を行なっておられる。管理者、職員が一体となつての介護だけでなく運営をも職員と一緒に取り組み評価しておられるのはホーム運営に期待が持たれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の中のグループホームとしては理解されているが、地域側のグループホームの位置づけが事業所としての感覚で見られるように感じられる。地域の中にグループホームを理解されている方達を中心にして高齢者が家庭的で安心して暮らしていることを知っていただく取り組みが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族とはよく連絡しておられる。また、家族の声を聞く努力もよくみられる。介護計画には家族の声がよく反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人の訪問があり祭りではみこしが立寄っている。散歩や買い物での外出で地域の人たちとの交流がある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このグループホームは”心身ともに健康で思いやりのあるグループホーム”という理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入ったところに大きくかかげており、管理者、職員はその理念に基いた介護をするためによく話し合っておられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事に参加しており、地域の祭りでもこしがホームを訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表を玄関に置き来訪者に見せている。職員は評価の意義をよく知っており、介護に役立てるための取り組みがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度地域の世話役さんたちと行なわれている。		会議の参加者を広げると共にグループホームの住人は地域の中に住んでいる人たちであることの理解を深めるような内容を期待する。

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県社会福祉協議会からの研修生を受け入れている。		市とはよく連絡をとっているが包括介護支援センターとのかわりをもっと広げられるとよい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	”便り”を発行して生活状況を家族に知らせている。緊急時にはすぐ家族に連絡することや家族が訪問したときは暮らしの状況を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置き家族などからの意見を聞いている。家族の声を介護計画や運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員はすべての入居者とよく話しており、入居者も職員によく話しかけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はよく研修に参加させており、報告もきちんとされている。研修費用はホームが負担している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者だけでなく職員も参加で行なわれている。お互いの介護の状況などの話し合いがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者とその家族の体験入所を行なっている。入居者には入居前に使っていたものを持込むようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と一緒にストレッチ体操を行っている。生活の中で身体がよく動くようになった。(例・散歩の歩き方)</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの違った生活態度が現れておりその人の思いが生かされた生活が見られる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族、職員と相談して介護計画は作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごと(急変事にはその都度)見直しはされている。そのときは家族の意見、職員の声を聞き前回のモニタリングを行なっている。決定するための会議が開かれている。</p>		

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	畳の場所でみなが一緒になってコタツに入っておられる姿は入居者が同じ家庭の中に暮らしている雰囲気を出しておられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週(月曜日)かかりつけ医の往診があり、何かあるときは夜でもかけつけている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前に終末期をこのホームで迎えられており、入居者は安心してここに居れるといった雰囲気を持っている。職員はそれに対応する準備ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にした取り組みであり、個人の尊厳を大切にしている。個人の記録はその配慮がうかがえる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の声を聞いてからそれに合わせた対応をしている。		

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを入居者と職員は一緒に行なっている。食事は入居者の状態によりゆっくりとしたペースで行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一度の入浴である。入居者の希望を聞いているがよく入られている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は自分の部屋に引き込むのではなく共用空間のタタミの場所に集まり話し合ったりしている。洗濯物たたみ等できることは行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩によく出かけている。最近は歩くことが上手になられて休みなしにでも歩かれるようになった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には自由に出入りできる。職員は拘束についてよく理解しておりそれに基づいた介護をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡体制を作りいつでも見られるように共用空間に大きく掲げている。		避難訓練などを短時間にできるような計画をつくり実施されるとよい。

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事量水分補給量を記録し不足の人には補給をしている。食事は野菜中心でやわらかく味も適当である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	タタミの部分にコタツが入っており、そこに皆が集まり入居者同士会話や職員との会話が見られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が持込まれたものばかりである。室内はよく清掃されている。		